

挨拶

長尾 真（京都大学総長）

京都大学総長の長尾です。

今日は大変たくさんの方々においでいただきまことにありがとうございます。私どもの高等教育教授システム開発センターは本当にユニークなセンターで、数年前に作られてから大学における教育の問題を多角的に取り扱っていますが、年1回フォーラムを開催しているいろいろな方々と大学教育改革についてディスカッションをするのが趣旨だと伺っています。

今日、大学は新聞やいろいろなところから批判されています。学生がまじめに勉強しない、先生方がまじめに教育しない、教育全体が崩壊しているのではないかな等々いろいろなかたちで言われています。これは大学のみならず、小中高等学校と大学教育の全体を通じてきちんとやっていたいかなければ、おそらくいいかたちで解決できないと考えられます。そのなかで高等教育に関しては、文部科学省が大学評価を本格的にやらなければならないということで、昨年4月から大学評価学位授与機構が、大学評価に関する専門機関として発足しました。大急ぎの準備の末、今年から国立大学を中心にして評価が開始されようとしています。大学全体の教育方針、特に全学共通科目関係の教育、専門分野の教育について評価することになっています。京都大学の場合は全学的な教育に関する評価とともに、医学教育に関する評価を専門分野として評価される予定です。今年の夏までに書類を出して、夏か秋に現地調査に来ると思います。今年の末か少なくとも来年の3月までには一応の評価結果を出すことになると思います。この評価が我々が襟をただし、反省をしてきちんといい方向に行く努力をするための契機になることを願っております。また国立大学が法人化されるとするならば、法人化されたあとの運営費交付金（文部科学省から国立大学に出される補助金）の額に何らかのかたちで評価が反映される可能性が高いということもあり、真剣に考えざるをえないところにきています。これは長年の大学教育の問題点の累積の結果そうならざるをえない面もありますが、こういったことが健全な形でなされることを望んでいるわけで、学問、教育が歪んでいくことのないように、最大限の努力をしなければならないと思っております。

日本人は一般的にパーソナリティがどこまで確立しているかというのは問題でして、外部からの圧力に対してくじけがちです。ですから、予算面の圧力によって学問本来の姿、教育の本来の姿が歪んでいくことが心配されます。少なくとも私ども京都大学ではそういうことがないように個々の先生方がしっかりとした考え方で教育しなければならないと常々言っておりますし、また、先生方もそのように考えてくださっていると思います。

いずれにしても、これからの大学の教育については、情報公開法ができる世の中ですし、ガラス張りのなかで、きちっと自分の良心に従って教育しなければならないと思います。例えば若い学生と一緒に社会人に講義をする場合、インターネットで講義をする場合、単に教室で今までのように講義する場合は、講義する先生の姿勢が違うことは事実のようです。そういうこともありますから、学生からの教育評価、世の中の評価が健全なかたちで行われることが有効ではないかと思えます。だれが聞いてくれても自分はきちんとやっているんだと胸を張れる講義を毎回する精神力を、鍛えなければならないと思います。

今日はお忙しい中をたくさん先生方が遠いところからおいでいただきまして、本当にありがとうございました。今日の討論会が有益であることをお祈りしたいと存じます。私、いつもですと最後までお聞きするのですが、今日は残念ながら退官なさる先生の講演に行かなければなりませんので、もう少ししたら失礼させていただきます。どうぞ活発なご議論をいただきまして、この会が皆さん方にとって有益でありますことをお祈りしたいと存じます。どうもありがとうございました（拍手）。